

# 普及指導員調査研究報告書

課題名：イチゴ「かおり野」における育苗時の施肥体系の検討

岩国農林事務所農業部 担当者氏名：兼常久美子

## <活動事例の要旨>

J A山口東が導入を検討している「かおり野」について、育苗期の施肥体系を検討した。従来使用していたIB化成より安定した肥効が期待できるエコロング413（1g/株施用）の検討を行ったところ、第1果房の収穫開始時期が遅れる結果となった。

### 1 普及活動の課題・目標

J A山口東いちご部会では、現在、4品種が栽培されているが、ロットの確保等の問題から品種の絞り込みが課題となっている。そこで、主力品種の候補として、省エネ性が高く、収量が確保しやすい「かおり野」の導入を検討している。

「かおり野」は、育苗期間中に窒素肥料を中断する必要はないと言われているが、その一方で、育苗後半に窒素肥料が過剰になると花芽分化が遅れる可能性がある。そこで、これまで、従来使用していたIB化成より安定した肥効が期待できるエコロング413（40日タイプ）の検討を行った。

### 2 普及活動の内容

- ・従来よりも安定した肥効が期待できるエコロング413を用いた施肥体系を検討し、実証ほを設置した。
- ・取り組みは、J A担当者と連携して行うとともに、部会員への情報提供を行った。

### 3 普及活動の成果

#### (1) 実証ほの概要

- ア 場所及び農家名 岩国市周東町 A氏、B氏、  
イ 設置方法（調査区及び設置面積等）

A氏	試験区 (1.5a) 1000株	慣行区 (1.5a) 1000株
切り離し日	8/8～10	8/8～10
置肥	8/11 エコロング <sup>®</sup> 413 1g/株 (N 140mg/株)	8/11 IB化成 2粒/株 (N 150～200mg/株)
定植日	9/15～16	9/15～16
B氏	試験区 (1.6a) 1000株	慣行区 (1.6a) 1000株
切り離し日	7/21～22	7/21～22
置肥	7/23 エコロング <sup>®</sup> 413 1g/株 (N 140mg/株)	7/23 IB化成 4粒/株 (N 300～400mg/株)
定植日	9/10～11	9/10～11

\*どちらも、雨よけハウス、頭上灌水

#### (2) 調査結果

- ・「かおり野」は、8月末の葉柄中の硝酸態窒素濃度が高いと花芽分化が遅れ、第1果房の収穫開始時期が5～15日程度遅くなった。
- ・エコロングはIB化成より、施肥後の葉柄中の硝酸態窒素濃度が急激に高くなった。

- ・各区の第1果房の花数や果実の大きさに、達観では差は見られなかった。
- ・「かおり野」の育苗時の肥料は、第1果房の収穫開始時期が遅れるため、従来のIB化成が適していると考えられる。IB化成の施用量については、A氏の葉柄の硝酸態窒素濃度より、2粒/株ではやや少ないのではないかと考えられる。

#### ア 葉柄の硝酸態窒素濃度 (ppm)

○A氏	試験区	慣行区
8/17 (施肥6日後)	28	43
8/31 (施肥20日後)	824	43
9/9 (施肥29日後)	217	143

○B氏	試験区	慣行区
8/17 (施肥25日後)	781	150
8/31 (施肥39日後)	1160	345
9/9 (施肥48日後)	284	223

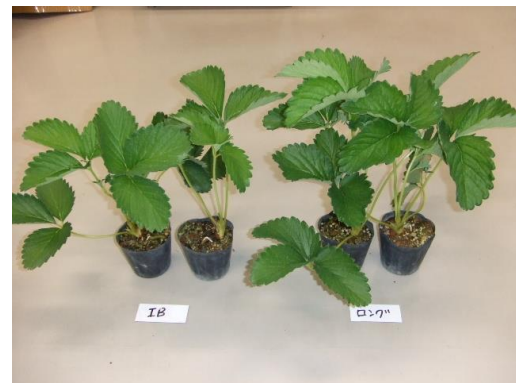
#### イ 花芽分化の状況及び定植前苗質調査 (9月9日)

○A氏	試験区	慣行区
葉長 (cm)	24.9	22.2
小葉長 (cm)	10.1	9.2
葉幅 (cm)	7.5	6.7
クラウン径 (cm)	10.0	9.1
花芽分化率 (%)	0	80
花芽分化指数	0	1.0

○B氏	試験区	慣行区
葉長 (cm)	32.9	28.0
小葉長 (cm)	11.9	11.2
葉幅 (cm)	8.3	8.4
クラウン径 (cm)	8.9	8.6
花芽分化率 (%)	100	100
花芽分化指数	1.2	2.4



A氏



B氏

#### ウ 第1果房および第2果房の開花はじめと収穫はじめ

○A氏	試験区	慣行区
第1果房開花はじめ	10月25日	10月20日
第1果房収穫はじめ	11月25日	11月20日
第2果房開花はじめ	11月5日	11月5日
第2果房収穫はじめ	1月上旬	1月上旬

○B氏	試験区	慣行区
第1果房開花はじめ	10月20日	10月5日
第1果房収穫はじめ	11月20日	11月5日
第2果房開花はじめ	11月1日	11月1日
第2果房収穫はじめ	12月末頃	12月末頃

#### 4 今後の普及活動に向けて

- ・結果を部会員へ説明するとともに、「かおり野」の育苗時の施肥体系を再検討する。